

55. 接続法 (4)

c. 間接話法

直接話法を間接話法に転換するには、次の手順で行います。

- 1) 直接話法文の引用符号(" ")をとる
- 2) コロン(:)をコンマ(,)に書き換える
英語は文の区切りとして直接話法ではコンマをおき、間接話法ではそのコンマをとるが、ドイツ語は直接話法ではコロンの、間接話法ではコンマで文の区切りとする
- 3) 代名詞を変え、必要な場合は接続詞をおぎなう
- 4) 定動詞を接続法第1式(場合によっては第2式)とする。ドイツ語は英語とことなり、時制の一致はおこなわない

直接話法と間接話法ではそれぞれ代名詞が変わることに気をつけてください。また間接話法では原則として接続法第1式を用いますが、もし第1式が直説法と同形の場合は第2式を用います。

直接話法

Er sagt: "Ich weiß es."
彼は『僕はそれを知っている』という。
Die Kinder sagen: "Wir wissen es nicht."
子供たちは『僕らはそれを知らない』という。

間接話法

Er sagt, er wisse es.
彼は自分はそれを知っているという。
Die Kinder sagen, sie wüssten es nicht.
子供たちは自分たちはそれを知らないという。

しかし強変化動詞(不規則動詞)では第1式を使うべき場合にも、第2式のほうが柔らかく砕けて聞こえるためにしばしば第2式を用いることも多いのです。

直接話法

Er sagt: "Ich weiß es."

間接話法

Er sagt, er wüsste es.

英語ともっとも異なっているのは、ドイツ語にはいわゆる「時制の一致」がないことです。つまり間接話法の地の文と間接引用文のあいだでは時制はそれぞれ独立しており、両者の時制は無関係なのです。この点はむしろ日本語ににているといえるでしょう。

直接話法

Er sagte: "Ich weiß es."
彼は『僕はそれを知っている』と言った。

間接話法

Er sagte, er wisse es.
彼は自分はそれを知っていると言った。

間接話法の時制は現在、過去、未来のみであって、直接話法の過去、現在完了、過去完了は間接話法ではすべて過去のみであらわされます。

直接話法

現在 Er sagte: "Ich weiß es."
過去 Er sagte: "Ich wusste es."
現在完了 Er sagte: "Ich habe es gewusst."
過去完了 Er sagte: "Ich hatte es gewusst."
未来 Er sagte: "Ich werde es wissen."
未来完了 ほとんど用いられません。

間接話法

Er sagte, er wisse es.
Er sagte, er habe es gewusst.
Er sagte, er habe es gewusst.
Er sagte, er habe es gewusst.
Er sagte, er werde es wissen.

間接話法では英語の *that* に相当する従属接続詞の *dass* を目的文の先頭におく(この場合はもちろん定形後置となります)こともあります。形式張った言い方の場合以外は省略します。

Er sagte: "Ich weiß es."

Er sagte, dass er es wisse.

しかし間接疑問文では英語の *if* あるいは *whether* に相当する従属接続詞の *ob* を文頭におき、もし疑問詞がある場合はそれをそのまま残して副文を構成します。

直接疑問文

Er fragte mich: "Kommen Sie mit mir?"

Er fragte mich: "Wo wohnen Sie?"

間接疑問文

Er fragte mich, ob ich mit ihm komme.

Er fragte mich, wo ich wohne.

間接命令文では、助動詞 *sollen* または *mögen* の接続法を用います。*sollen* は強い命令、つまり親称2人称に、*mögen* は丁寧な依頼、つまり敬称2人称にたいして用いられるのが普通です。

直接命令文

Er sagte zu mir: "Komm gleich!"

Er sagte zu mir: "Kommen Sie gleich!"

間接命令文

Er sagte mir, ich solle gleich kommen.

Er sagte mir, ich möge gleich kommen.

直接命令文で「…だれそれに(向かって)」という命令の相手をあらわす場合は、前置詞の *zu* と3格の名詞あるいは代名詞を用いますが、間接命令文ではこの *zu* は省略されます。

ドイツ語でよく見られる間接話法の用法として、名詞の内容を説明する場合にしばしば用いられるという点です。

Er war der Meinung, dass es unmöglich sei.

彼は、それは不可能だという意見だった。

しかし、日常会話のドイツ語ではこの間接話法における接続法はだんだん使われなくなっています。それは話者が相手に向かって話している場合は、その内容を事実であるとして話していることが多いはずですから、接続法ではなく直接法が用いられることが普通なのです。

ところが、新聞やテレビなどで多数のひとびとに向かって客観的に記事やニュースを伝えるときは接続法がよく用いられています。従って日常会話だけを考えれば間接話法はほとんど直接法でかまいませんが、それ以外では間接話法ではまだまだ接続法が多用されています。

日常会話文

Ich glaube, es ist kein Problem.

僕はそんなことは問題ではないと思う。

報道文

Die Polizei sagt, dass der Täter gleich verhaftet werde (würde).

警察は、犯人はすぐに逮捕される、と述べています。